

# Our Life 117号

- ＊  
内  
容  
＊
- 15年前を思い出す「第13回日本福祉文化学会大会静岡大会」今年第28回東京大会開催……P.1
  - 「居場所ってなに？ その意識と実態調査」1,443枚の単純集計から……P.2
  - 「居場所活動検証訪問」7ヶ所から見たものは……P.3
  - 平成30年度当面の委員会、全体会（公開型研修会）ご案内／事務局日誌拝見……P.4

## 15年前を思い出す「第13回日本福祉文化学会静岡大会」 今年第28回東京大会のキーワードは“いのち”、“暮らし”

早いもので、平成14年11月30日（土）～12月1日（日）、裾野市民文化センターを会場にして、全国から600名余の参加者を迎えて開催した「第13回日本福祉文化学会大会 IN しずおか」から、あっという間に15年余りが過ぎた。今振り返ると、開催3年前から、学会事務局と県内外各地から42名の実行委員会（通算8回開催）を立ち上げて、大会事務局を置いた焼津市と、会場になった裾野市を数えきれないほど行き来し、協議や連絡調整を積み重ねた。静岡大会を何とか地域社会を巻き込んで実現したいという熱い思いもあり、主には、社会福祉法人富岳会、裾野市、裾野市社会福祉協議会等の全面的なご支援をいただき、「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、前年の平成13年11月29日には、裾野市で「ブレ大会」の開催も実現。本大会テーマ「富士山麓 いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造」をもとに、関係者が一丸となって取り組んだことがつい最近のように思い出される。

平成29年度の「第28回日本福祉文化学会全国大会（東京大会）」が、2月18日（1日開催）、東京・池袋の立教大学池袋キャンパスにおいて、全国から多数の参加者が集い、大会テーマである「いのち」と「暮らし」を拓く福祉文化の創造をもとに開催された。久々に参加して、特に「いのち」そして「暮らし」の共通キーワードはあの時（静岡大会）から15年の今も永遠のテーマであることに気づかされ、今こそ福祉文化の創造だと感じた。

馬場学会会長は、今回の東京大会について、近年、「いのち」がぞんざいに扱われたり、「暮らし」がないがしろにされるようなできごとが相次いでおり、「文化のメガネで福祉を見る」ことによって、実態を明らかにし、すべての「いのち」が輝き、さまざまに彩られた「暮らし」が、息づくためにはどうしたらよいか、考えよう。そして、今回は、(1) 特別講演…上野千鶴子さん（社会学者）の「死にゆく者の自律—「おひとりさま」時代の生と死」、(2) 福祉文化研究・調査プロジェクト「中間報告」、(3) 自主シンポジウムの3点の企画中心にプログラムを展開すると強調された。その他、学会会員による「研究発表」①福祉コミュニティ、②福祉コミュニケーションが行われた。会場内で、「新潟福祉文化を考える会」、「沖縄福祉文化を考える会」はじめ、本会にこれまで直接・間接ご支援いただいている学会会員関係者と久々に交流を深め、引き続き、ご支援をお願いした。

### ～第13回静岡大会の時の様子～



会場は、超満員



運営は富岳会の全面的な協力



会場の様子

# 「居場所ってなに？ その意識と実態調査」から見たものは何か 第3回公開型研修会で公表、参加者23名とともに、これからを語る

本会は、22年間、「福祉を文化にする、静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）を活動の原点として、各種研修会で「ワークショップ方式」等により、意見交換や討論を交え、多様な学習方法を提案し、世代を越えた「地域総合型学習」を実践し検証してきた。3月4日（日）「ご近所福祉で集まる地域ぐるみの居場所を拓くーあらためて、今なぜ居場所かー」を研修テーマに第3回公開型研修会を開催し、23名が参加した。出来上がった「調査報告書」をもとに、「居場所ってなに？ その意識と実態」を検証した。又、居場所活動検証訪問等の取り組みの報告を基に、福祉コミュニティ再構築により、支え合う地域をいかに創るかを議論した。



## ＊ ＊ 「調査報告書」をもとに、主な調査結果と考察を紹介すると… ＊ ＊

- (1) 22年間の「福祉文化の創造」をもとに、「ご近所福祉」から「真の居場所」を検証した調査のプロセス
- (2) 基本属性は、ほぼ「均等化」「信頼性」を確保できた。男性 38.1%、女性 61.3%と、一般的な回答を得た。
- (3) 住民の生活状況に関する考察では…
  - ① 一人でも安心して暮らせる地域の問いに、「暮らしやすい」と回答。
  - ② 隣近所との付き合いでは、男性より、女性の方が積極的。
  - ③ 現在の地域での暮らしの安心度は、不安を感じる年代層は、50代～60代、30代～40代、70代～80代の断層的状况が伺える。不安内容は「災害時」「健康面」「情報がない」「社会の仕組み」
  - ④ 地域活動に関する情報・知識の入手方法では、全体的には、「回覧板」が大きな役割を持つ。
- (4) 地域との関わりの意識に関する考察
  - ① 地域活動への関心は6割ある。若い男性層が地域に目を向ける課題。
  - ② 関心のある地域活動の分野を全体で見ると、不安要素と関連する「災害・防災領域」「地域コミュニティ領域」「福祉ボランティア領域」「自然環境保全領域」「世代や領域を超えた交流領域」「教育領域」「ご近所福祉領域」の順に挙げられている。
  - ③ 今の地域への居住意向は、加齢と共に、地域への関心大。
- (5) 地域との関わりの実態に関する考察
  - ① 地域住民を対象にした福祉に関する研修会・講座の開催の認知度は4割。
  - ② 地域の福祉活動を企画・運営する組織の認知度は5割。
  - ③ 福祉制度等に関心を持ち、話題がある地域5割の回答。「わからない」3割。
- (6) 地域を取り巻く望ましい生活環境に関する考察
  - ① 身近に福祉問題について、半数は対応できる環境。
  - ② 半数が「支え合う地域」と回答。
  - ③ ささえあう活動を実現するための環境が整っていること、一緒に活動する仲間がいること、地域の抱えている課題に関する情報が提供されていることが望ましいと回答。
  - ④ 地域において取り組む「寄り合い処」の主な対応は、「おしゃべりタイプ」「趣味タイプ」「カフェタイプ」「自由タイプ」「世代交流タイプ」。領域では、その必要性を感じない「希望なし」の回答あり。



居場所の原点？

- ⑤ 地域で積極的に新しい人々とのつきあいを広げたい住民は約 8 割と高い。
- ⑥ 地域での支え合いを約 9 割が必要と感じている。特に、高齢者層及び 30 代～50 代。
- ⑦ 地域での役割の期待では、①防災・防犯などの日常的協力体制、②世代を越えた住民同士のふれあい交流。

### (7) 地域参加の動向に関する考察

- ① 身近な地域の行事・活動への参加は、6 割「参加している」。しかし、2 割は参加していない。
- ② 身近な地域の行事・活動に参加していない理由は、「時間がない」「参加のきっかけがない」「興味がわからない」「情報が入らない」「近くに活動がない」「一緒に活動する人がいない」「自分にあった活動がない」
- ③ 気軽に出かける地域の居場所は、「公会堂・集会」「公民館」「友人宅」「出かけない」「なし」
- ④ 地域の居場所づくりは、「ボランティアの有志」主体の回答が多い。
- ⑤ 望む地域の居場所の環境は、誘われた参加といった受身的回答が 7 割を占めている。
- ⑥ 組織・運営については、上下をつくらない対等な関係を保持することを原則。

## 福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業 — ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言 — \* \* 「第 4 回共創社会研究会」で総括 \* \*

既存の「居場所」の現状把握と課題を浮き彫りにし、果たして、「居場所」の存在について県民の意識と実態はどうかを検証するため、地区実践活動者領域、社会福祉協議会領域、コミュニティ（自治会）領域、本会会員領域、そして若者領域から、16 名の委員による、「共創社会研究会」を設置し、事業実施期間中 4 回開催した。

第 4 回研究会を 3 月 10 日（土）静岡県総合社会福祉会館で開催し、本事業を総括した。



### \* \* 共創社会研究会委員の意見集約 \* \*

「共創社会研究会」では、各事業の経過報告・説明を受け、それぞれの立場で、各委員から建設的な議論を積み重ねた。今後、各地域における実践活動の活性化に向けて、これまでの意見を課題提起・提言として項目ごとに集約した。主な意見を紹介すると……

- A. 居場所の原点とこれからを探る
- B. 協働～いかに、地域がトータルな連携を図るか～
  - (1) 社会教育と社会福祉の「融合」
  - (2) 地域の連携の必要性 社協、行政、自治会との協働のあり方が問われている  
これからは、いかに課題解決に向けて、住民主体で取り組み「つながる」社会とするかである。
  - (3) 施設の社会化の視点（機能、運営、問題、処遇）
  - (4) 近隣地域との連携
  - (5) 今の時代、運営から経営感覚の保持が求められる
  - (6) 企業と地域社会（自治会）の共生＝企業の社会貢献
  - (7) 当たり前のことを当たり前にする社会～当事者による問題提起、いかにコミュニティで解決できるか
- C. 地域社会を診断する
  - (1) 地域の診断と問題解決～地域性を活かした居場所の取り組みと仕組み（組織化）～
  - (2) 住民は、いろいろなニーズを抱えている現実の社会は、福祉社会の構築。
- D. 福祉コミュニティの組織運営
- E. 若者の地域参加～いかにして、「大人社会」が、若者に「具体的な参加の機会」を提供できるか～
- F. 情報の共有で「語れる環境」をいかに創り出すか

## 事務局日誌拝見 (2/1~3/30)

- 02/01 静岡新聞社 鈴木記者より、調査結果の取材時期問い合わせあり
- 02/02 調査報告書考察作業実施
- 02/07 クロス集計考察作業に入る
- 02/15 沼津原団地 居場所見学／調査研究・クロス集計考察及び修正作業に入る
- 02/18 第 28 回日本福祉文化学会 東京大会に参加し、関係方面に連携呼びかけ
- 02/19 静岡新聞社 鈴木記者との連絡調整／調査報告書データをシブヤ印刷芸社に渡す
- 02/20 静岡新聞社 鈴木記者との協議（調査報告書に関する意見交換）
- 02/21 助成事業報告書作成作業に入る／ふじのくに未来財団との連絡調整
- 02/22 静岡新聞社 鈴木記者との協議（居場所に関する考察についての取材）
- 02/24 調査報告書に関する印刷業者との協議／助成事業報告書編集作業に入る
- 02/28 調査報告書納品／助成金報告書データ渡し（入稿）
- 03/01 静岡新聞に「調査報告」記事掲載 県内各地から「報告書」の問い合わせあり
- 03/04 第 3 回公開型研修会開催／第 189 回委員会開催
- 03/06 静岡新聞「大自在」に本会活動関連紹介掲載
- 03/09 助成事業報告書納品あり
- 03/10 第 190 回委員会開催（来年度活動テーマ：子どもと地域環境）／第 4 回「共創社会研究会」開催
- 03/11 「共創社会研究会」事後処理
- 03/15 静岡新聞記事関連で現在も問い合わせ続く
- 03/20 第 8 回港地域ささえあい講座実行委員会開催／助成事業実績報告書書類作成作業実施
- 03/23 助成事業実績報告書提出／平成 30 年度活動計画検討
- 03/24 ふじのくに未来財団との連絡調整／関係機関・団体等に事業終了に伴う礼状送付

### ★平成 30 年度の本会予定をお知らせします★

- **第 191 回委員会及び学習会（役員をはじめ、会員は自由に参加できます）の開催**  
日時：4 月 21 日（土）13:30 会場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」  
協議事項：「平成 29 年度活動総括」「平成 30・31 年度役員検討」「平成 30 年度活動計画協議」
- **第 192 回委員会及び学習会（役員をはじめ、会員は自由に参加できます）の開催**  
日時：5 月 27 日（日）10:30 会場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
- **平成 30 年度本会全体会及び研修会の開催**  
日時：5 月 27 日（日）10:30 会場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」  
全体会及び公開型研修会  
(1) 平成 29 年度を振り返る、(2) 平成 30 年度の福祉文化実践活動の取り組み  
(3) ワークショップ「これでよいか、子どもたちを取り巻く環境を拓く」

### ●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)の翌年平成 8 年 9 月 1 日に発足し、22 年の節目を迎えました。「地域発 福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、会員は、地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人 3,000 円 大学生以下 1,000 円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗 3-7-15-5  
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

### 編 集 後 記

16 年前の「第 13 回日本福祉文化学会静岡大会」を思い起こす「第 28 回学会東京大会」に参加。本会が 22 年間「地方発 福祉文化の創造」を呼びかけてきた活動に、研究発表や多くの研究者から、これからの時代に向けて、さらに強く求めていかなければならないとの意見を聴き、本会のこれまでのプロセスは、決して間違いではないことを検証出来た。平成 29 年度は、各種助成事業をいただき、県民に福祉文化を発信できた。引き続き、関係団体との「協働」で、「福祉文化の火」をともし続けたい。